

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家くるめ館		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2026年 1月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2026年 1月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が在籍しており、それぞれの専門性を活かしながら、幅広い視点で利用者への支援を行うことが出来ている。	医療行為や個別訓練を通して、児童一人ひとりの身体状況や発達段階に応じた、きめ細やかな支援を実施している。	外部の研修会や勉強会に積極的に参加し、専門知識や支援技術の向上を図ることで、支援の質の向上に努めていく。
2	他事業所との交流を行ない、支援内容や取り組みについて意見交換をすることで、より良い支援に繋げている。	児童一人ひとりの特性や支援上の注意点を把握し、関係事業所と情報共有を行うことで、継続性のある支援を心がけている。	今後は交流の機会をさらに増やし、他事業所との連携を深めることで、支援の幅を広げていく。
3	児童の体調や身体状況に配慮しながら、安心・安全を第一に考えた入浴支援を行なっている。	ユースラックを導入することで、児童の負担を軽減し、安全面に十分配慮した入浴支援を実施している。	今後は中高生を対象にした足浴を実施し、年齢や身体状況に応じた無理のない入浴支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員それぞれが専門的な業務を担っている為、困った際にすぐに相談できる同職種の職員が少なく、情報共有や相談が十分に行いにくい状況がある。	職員個々の経験や知識に差があり、専門的な判断や対応に不安が生じる場面があることが課題の要因となっている。	職員間での情報共有を積極的に行うとともに、各職種に応じた研修や外部研修会への参加を通じて、専門性の向上を図っていく。
2	保護者同士や事業所と保護者が交流する機会が少なく、意見交換や情報共有を行う場が十分に確保できていない。	保護者が参加しやすい行事や交流イベントが少ないことが、交流の機会が限られている要因となっている。	保護者が参加しやすいイベントを企画・実施し、保護者同士や事業所との交流を深める機会を増やしていく。
3	地域住民や地域団体とのかかわりが少なく、地域とのつながりを十分に持てていない状況がある。	地域で行われている行事や活動についての情報収集が十分にできておらず、参加や交流の機会を活かしきれていない。	地域のイベントや行事に関する情報共有を行ない、計画的に参加することで、地域との交流を少しずつ広げていく。